



## 医学図書館における学生、教員との協働

森田 正\*

鳥取大学医学図書館

近年、大学図書館において様々な学生協働が行われている。本誌で紹介された旭川医科大学や山口大学、鳥取大学等の事例から、学生の参加により図書館運営の活性化が図られていることは注目すべきである。図書館側の視点だけでなく、利用者（特に学生）の立場からの視点を持つことは、さらなる図書館サービスの向上につながる。

鳥取大学医学図書館（以下「医学図書館」）は、医学部学生会と連携をとり、ブックハンティングや学生希望図書選定、ヒポクラテスルーム（自習室）の清掃などを学生たちに協力してもらっている。医学部学生が試験や実習で多忙な毎日を送っているにもかかわらず図書館運営に協力してくれることは、協働にむけた取り組みとして意義深いものである。

しかし、現時点ではまだ図書館側からの協力要請に応じる形であり、本当の協働とは言えない。もっと学生たちが積極的に様々な図書館活動に参加できる体制を作る必要性を強く感じている。医学図書館は今年度、念願であった改修工事が施工され、リニューアルされる。この機会に学生にもっと図書館運営に参加してもらい、学生と共に作り上げていく我々の図書館を実現したいと考えている。

また、特徴ある取り組みとして、一般教養課程の学生に人体への興味・関心を持ってもらえるように、平成21年度から「人体」コーナーをカウンター前に設け、美しい図や写真で人体を平易かつ興味深く解説した書籍や動画を、教員の協力を得て選定し紹介している。さらに、上記コーナーの資料の紹介も兼ね、医学と芸術との関係など学生の知的好奇心を刺激する内容の図書館セミナーを開催している。同時に、教員の要請を受け、図書

館職員が1年生の授業に「人体」コーナー資料等を持参して紹介する出張図書館を始めた。これにより、学生の図書館利用率も目に見えて向上している。

ある時、「人体や臓器の模型を用いると学生の人体への興味・関心が高まる」と教員からの話があり、試みに、セミナーや出張図書館に医学部教室所蔵の人体・臓器模型を持参した。学生は図書館の資料にも興味を示していたが、それ以上に模型の前には常に多くの学生が集まり、手に取るなどしていて関心の高さがうかがえた。また模型を手にした後に、資料を調べる学生もいて、医学図書館の資料への新たな入り口として模型の有用性を感じた。

セミナー等のアンケート調査で、「人体・臓器模型を図書館で設置してほしい」と多くの学生が希望したので、平成23年に図書館での人体・臓器模型購入を運営委員会に諮り、「トルソー」と「脳」の模型を購入した。模型はセミナー、出張図書館に持参して学生に実際触れもらうためのもので、最も人気の高い資料である。また、模型は、学生の希望に応じて図書館内で自主学習に利用でき、利用する学生も増えている。これらが、学生が専門科目の学習にさらに意欲的に取り組んでもらう一助となればと考えている。

このように学生や教員と協力しあう関係は、双方のコミュニケーションが重要であり、図書館職員から積極的に働き掛けることが必要である。学生や教員からの意欲や協力がなければ、図書館サービスも向上していかない。新しい取り組みを考えていく上でとても重要であると考えられる。

\*Tadashi MORITA : 〒683-8503 鳥取県米子市西町86番地。  
(2012年9月13日 受理)